

風土記の丘の花だより³⁰⁷

今、そしてこれから見られる植物(2026年2月7日)

立春が過ぎて、少しは暖くなりましたが、やっぱり寒さが逆戻り。暦の上では春ですが、まだまだ冬が続きそうです。大池のカモが増えてきました。今年はまだ珍しい種類は入っておらず、大半がヒドリガモ、そしてカルガモとマガモがほとんどです。この前ヨシガモが入りましたが、すぐに抜けてしまいました。でも、これからが楽しみです。



この真冬に、真っ赤でみずみずしいイチゴがなっています。冬に熟すイチゴですから、その名もフユイチゴです。食べたらおいしいイチゴで、ジャムにしてもなかなかの味です。暖かい地方の、おもに山に普通に生えています。枝が蔓のように伸びて、生え広がります。茎など全体に毛が多く、葉は硬くゴワゴワしています。草のように見えますが、分類では、木ということになっています。夏が終わる頃、白い花を咲かせます。その花もととてもきれいです。海岸にはとてもよく似たハウロクイチゴが生えます。



高野山の店先でよく見かけますね。近くの花屋さんでも仏花のコーナーで売られているのではないのでしょうか。ご存じ、コウヤマキです。どなたが植えてくれたのか、風土記の丘に1本だけあります。「高野山のマキ」という名前ですが、マキの仲間ではなくコウヤマキというコウヤマキ科の木です。この木は「高野六木・こうやりくぼく」の一つで、スギ、ヒノキ、モミ、ツガ、アカマツとともに、高野山で守り育てられてきた6種類の木の一つです。竪穴住居の前の道から、左斜め前を覗くと見えます。



写真では普通の松ぼっくりに見えますが、実際の大きさは20センチほどもあります。ダイオウショウ(またはダイオウマツ)です。竪穴住居の南側の木は、頻繁に剪定されるので、球果がほとんどできませんが、安藤塚の木には毎年たくさんできます。特に台風などの強い風が吹いた翌日は拾いやすいです。葉は3本一組で、長いものでは30センチを超えます。大正の初め頃、北アメリカから持ち込まれ、お寺や公園などに観賞用に植えられました。この松ぼっくりは風土記まつりの景品としても大人気です。



スペースの配分を間違えて扁平な写真になってしまいました。見事なまでにたわわに実っているのはトウネズミモチの実です。これだけ実っているのに、なぜか鳥は余り食べません。でも、たまに食べるようで、糞の中の種子があちこちにばらまかれ、あちこちに勝手に生えてきます。赤や黄色ならもっと食欲が湧くのですが・・・。松下